



プログレッシヴ・ロックで世界に



神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授

谷 冬彦 (たに ふゆひこ)

1999年に相模女子大学短期大学部講師，2000年に神戸大学発達科学部講師，2002年に同助教授，2007年より現職。専門は青年期の自我同一性形成。著書は『自我同一性の人格発達心理学』（単著，ナカニシヤ出版），『さまよえる青少年の心：アイデンティティの病理』（共編，北大路書房）など。

私は、高校や大学時代から、プロのロックミュージシャン（ギタリスト）になることを目指していた、もともとは学問の世界に入るのは考えていませんでした。大学時代や大学卒業後は、数々のコンテストに出場したり、オーディションを受けていました。それはバンドを組んでという形ではなく、一人で全ての楽器を演奏し、多重録音をして、デモテープを作成し、応募するという形の、私個人が審査対象となる音楽活動でした。その結果、有名楽器メーカーであるローランドやヤマハが主催するコンテストでは入賞を果たしました。また、B'zなどが所属するプロダクションとして有名な「ビーイング」のオーディションでは優秀者に選ばれ、プロになるためのアドバイスを受けていました。

大学卒業後は、父が経営する学習塾の講師をしながらも音楽活動を続けていましたが、5年も経つとだんだん音楽活動に疲れてきて、他の道を考えるようになりました。それが学問の道でした。そして、少々遅れて大学院に入学することとなり、本格的な音楽活動からは離れていくことになりました。その後は心理学を本格的に学び、研究するようになり、博士号を取得した後に、大学教員として常勤職に就くようになりました。

研究・教育がメインになる生活を送っている中で、たまに友人たちとバンドで演奏などもやっていたのですが、本格的な音楽活動への憧憬も消えてはいませんでした。

た。そんな中で、昔からの友人で麻酔科医である塚越裕というベーシストと「二人でユニットを組んで、本格的に音楽を再開しよう！」という話になりました。私は神戸在住、塚越は群馬県の前橋在住と、遠距離のユニットになったのですが、音楽機器の発展に伴い、データのやりとりをして、たまに会って音楽作成をすることが可能となったため、なんとかユニットは存続できました。

そして、このユニットは、2003年から“Being & Time”という名称でライブ活動などを始めることとなりました。音楽ジャンルは、プログレッシヴ・ロックというジャンルで、ボーカルなしのインストゥルメンタルの音楽でした。ユニットを結成してまもなく、全国的に有名なライブハウスである神戸チキンジョージで数回ライブを行える機会に恵まれました。“Being & Time”は、打ち込みをバックにギターとベースを演奏するという変則的なユニットですが、ライブは好評でした。ちょうど、チキンジョージでライブを行っている頃に、プログレッシヴ・ロック専門の東京の音楽プロダクションである「ポセイドン」というところが我々に注目してくださり、CDリリースをしてくれるという話になりました。

多忙な仕事の合間を利用して曲作りやレコーディング作業を行い、数年かかりましたが、2009年に“Being & Time”というユニット名と同じ名前のデビュー・ア

ルバムをリリースすることができました。CD帯には、東京音楽大学教授であり、プログレッシヴ・ロック界の権威である難波弘之氏から絶賛のコメントをいただきました。そして、このCDは、日本で全国的にリリースされたのはもちろんのこと、フランスのレーベルからも欧米を中心として世界的にリリースされました。

また、このCDは、日本のレビューサイトや専門誌などで高く評価されたのみならず、アメリカやウズベキスタンなどの海外のレビューサイトでも高い評価を得ました。その中でも、イタリアのプログレッシヴ・ロックの賞である“ProgAwards”では、2009年度のBest Debut Record部門にノミネートされました。ノミネートされた日本のアーティストは我々だけでした。我々の音楽は世界へと旅立ちました。

CDリリース後、アメリカからライブのオファーがありました。校務のため残念ながら不参加となりました。一方、日本では、CD発売記念として関東と関西でいくつかのライブを行いました。一昨年、神戸チキンジョージでライブを行った後は、少しライブから遠ざかっていますが、近いうちにまた活動を再開したいと思っています。

なお、“Being & Time”の詳細は、オフィシャル・ウェブサイト (<http://being-and-time.com>) にてご覧ください。